

A world map with a light green background and black outlines of continents and countries. The map is centered on the Atlantic Ocean.

Weekly Market Monitor

---主要コモディティ・金利編---

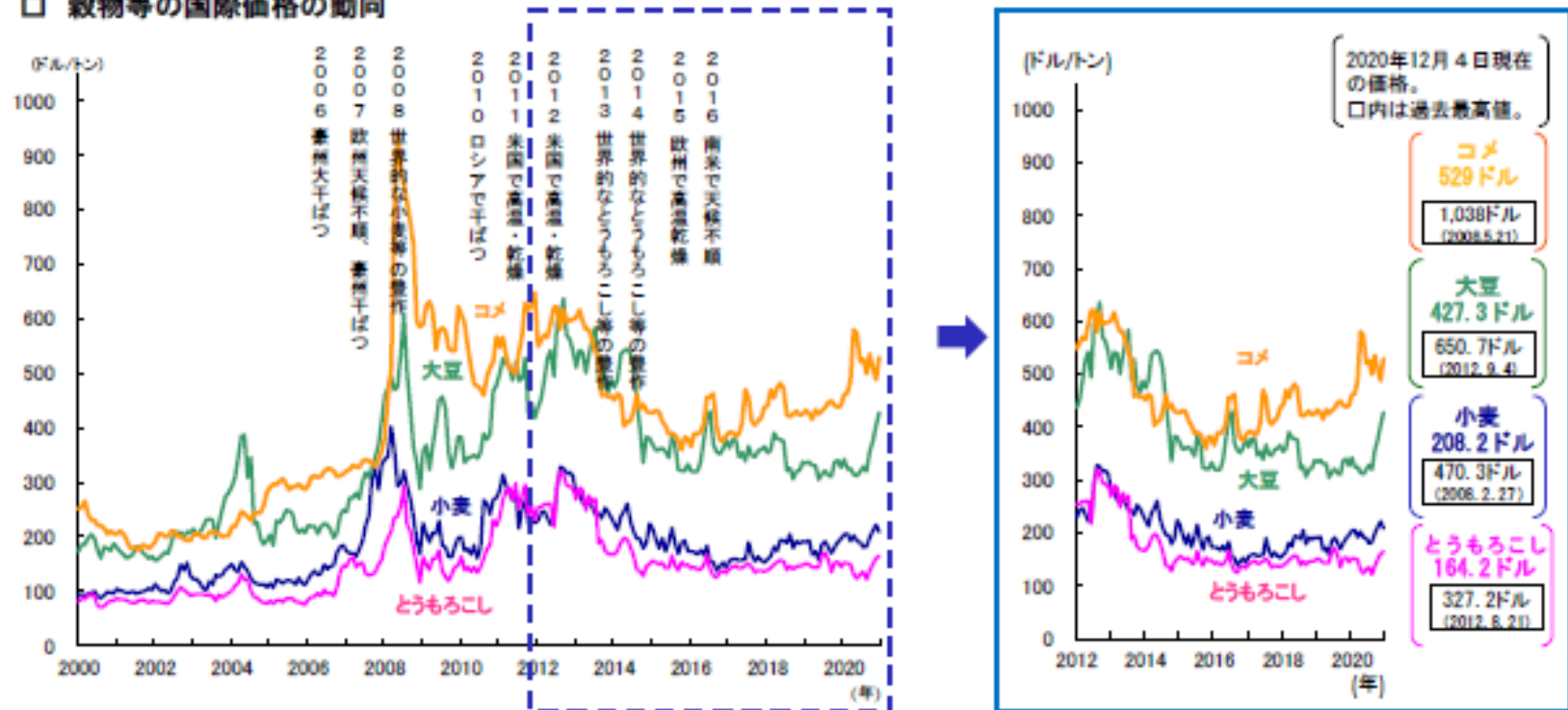
2021年1月8日データ迄収録

穀物は全般に緩やかな上昇

穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な小麦やとうもろこし、大豆の豊作等から穀物等価格は低下。
2017年以降ほぼ横ばいで推移。コメは、2013年以降タイの在庫放出等から低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により3月末から上昇した。4月末のベトナムの輸出枠の解除等で下落したものの、依然として高止まり。
○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



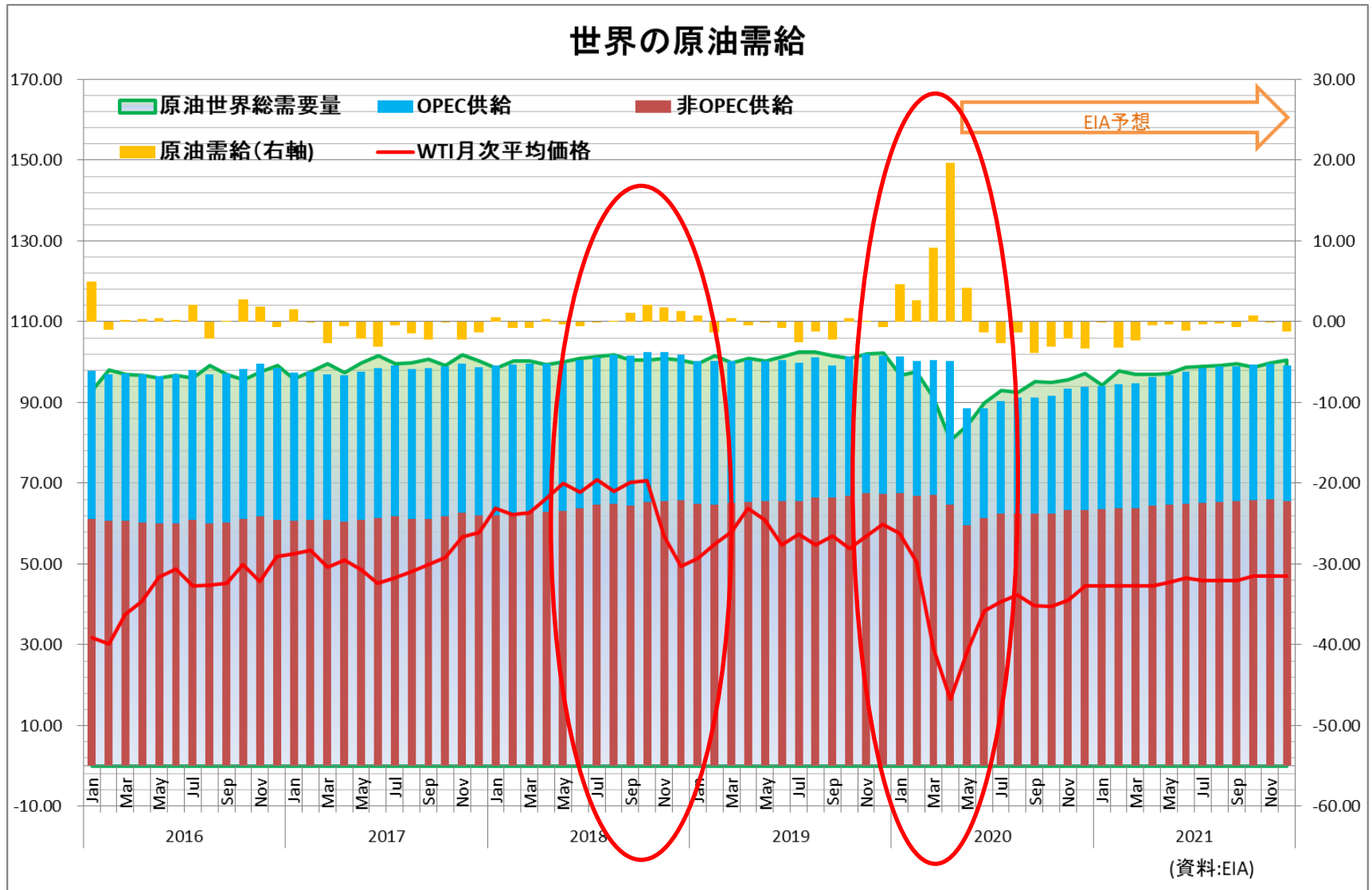
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の毎月第1金曜日の期近新種の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による毎月第1水曜日のタイうるち糯米100%2等のF.O.B価格である。
注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近新種の最高価格。

穀物は現状安定圏内だが一部水準切り上げ

---大豆は中国需要拡大による:世界の需要増の約60%は中国---

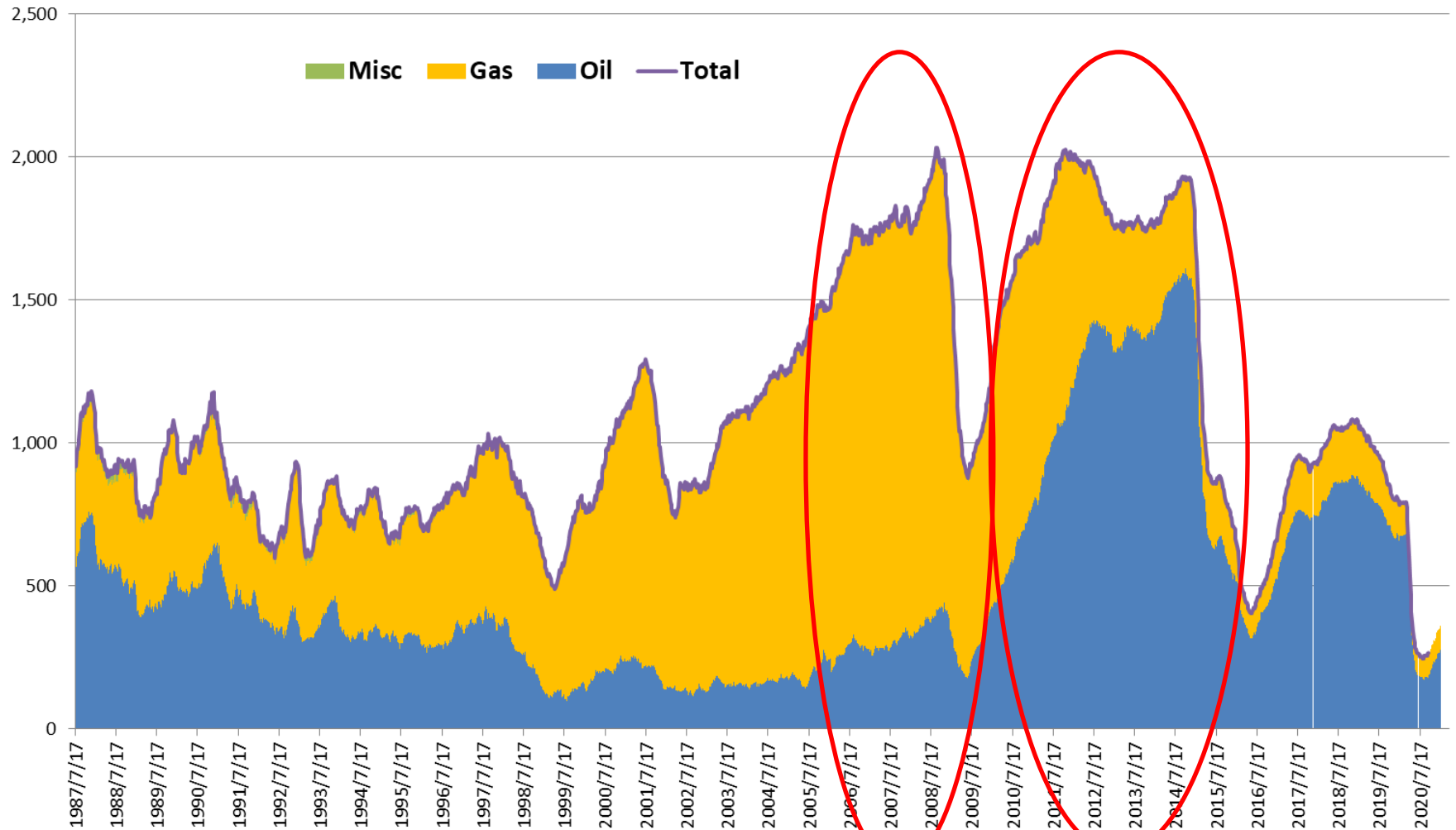


原油の生産は大幅余剰から徐々にバランス



シェールオイル等の稼働リグは大幅に減少

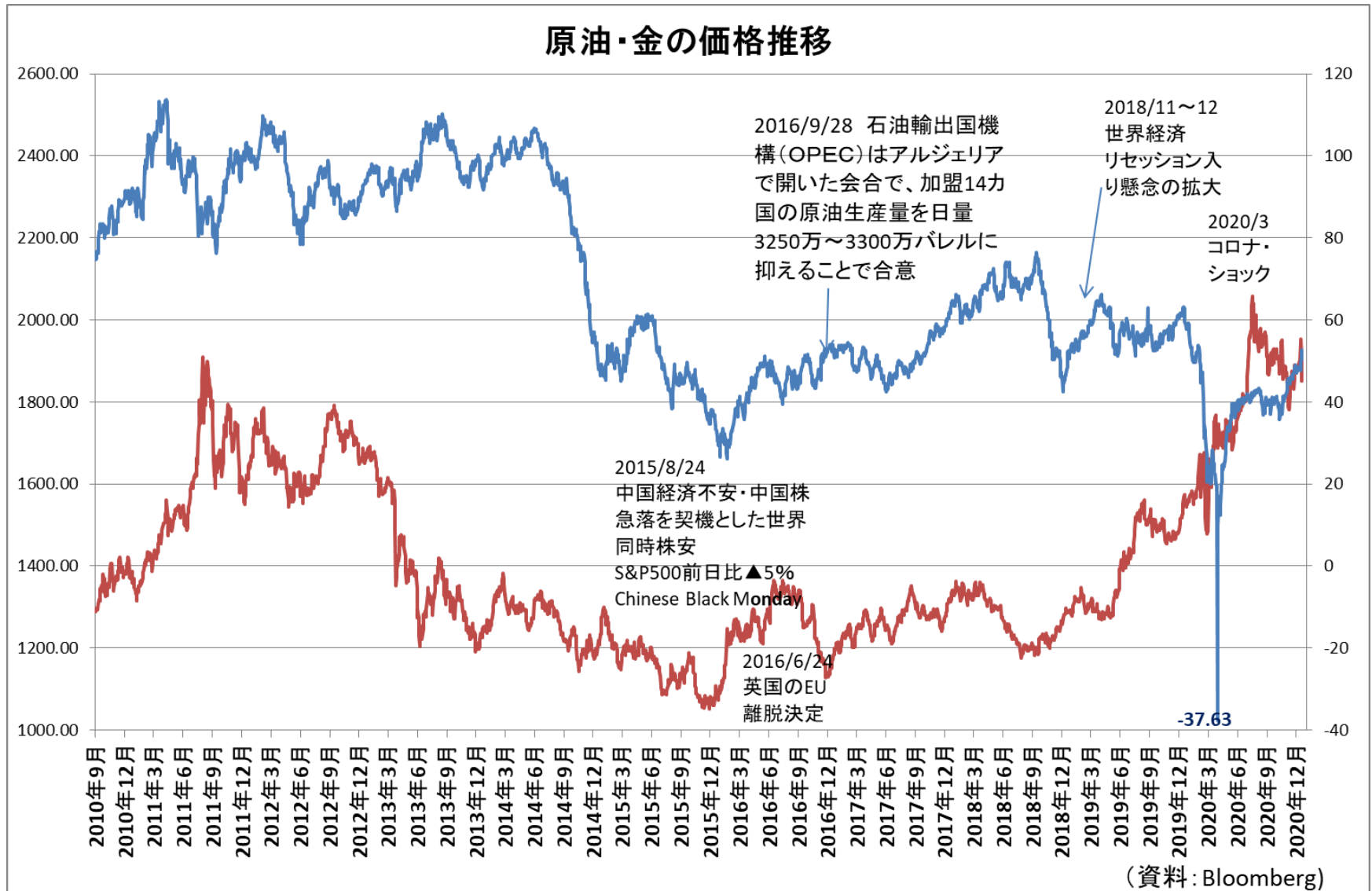
北米原油・ガス稼働リグ



(資料: Baker Hughes)

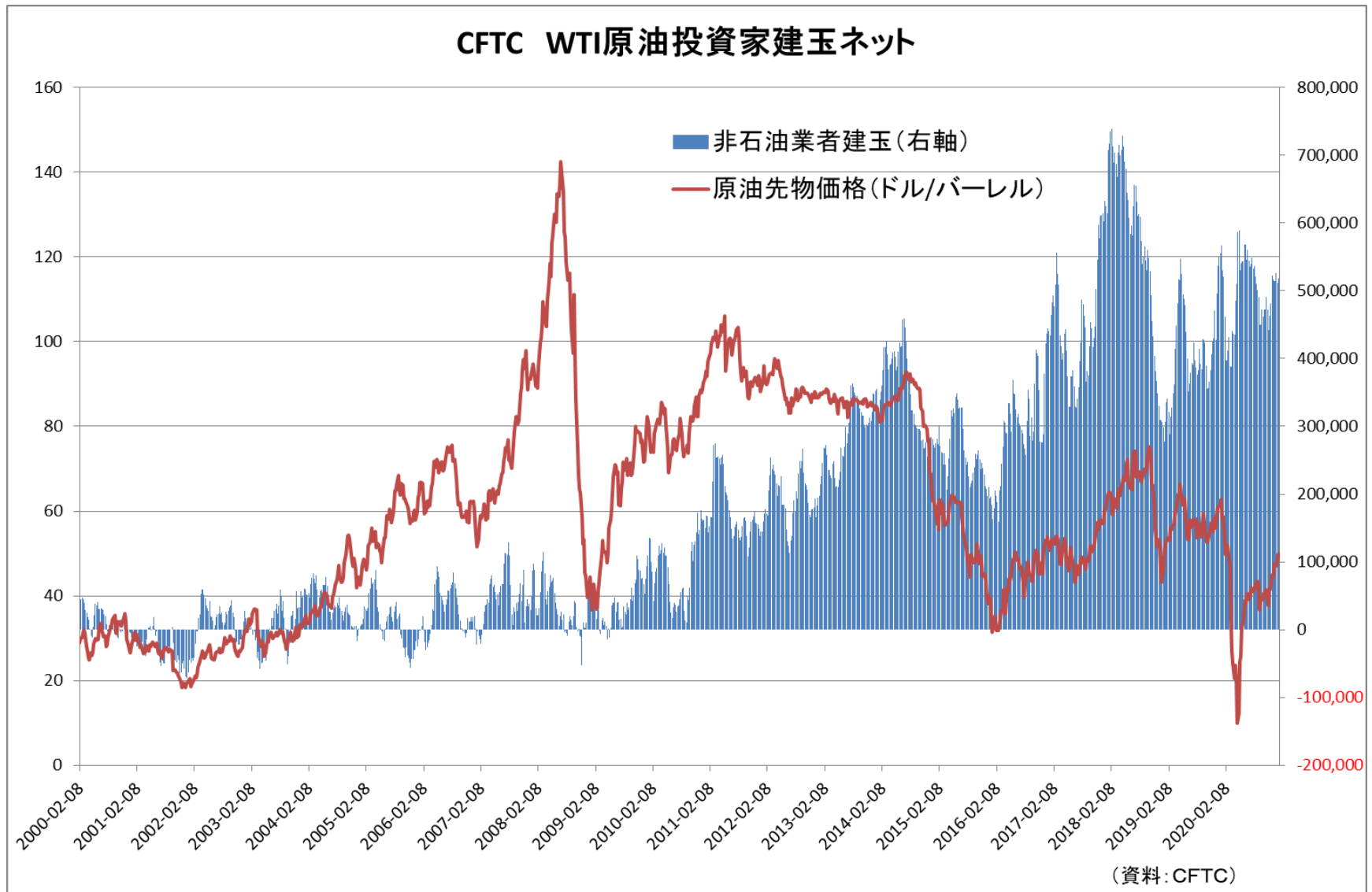
WTIは一時大幅マイナス記録後、大幅な戻りに

---原油の基調は供給過剰だが、コロナワクチン等からかなり楽観的に---



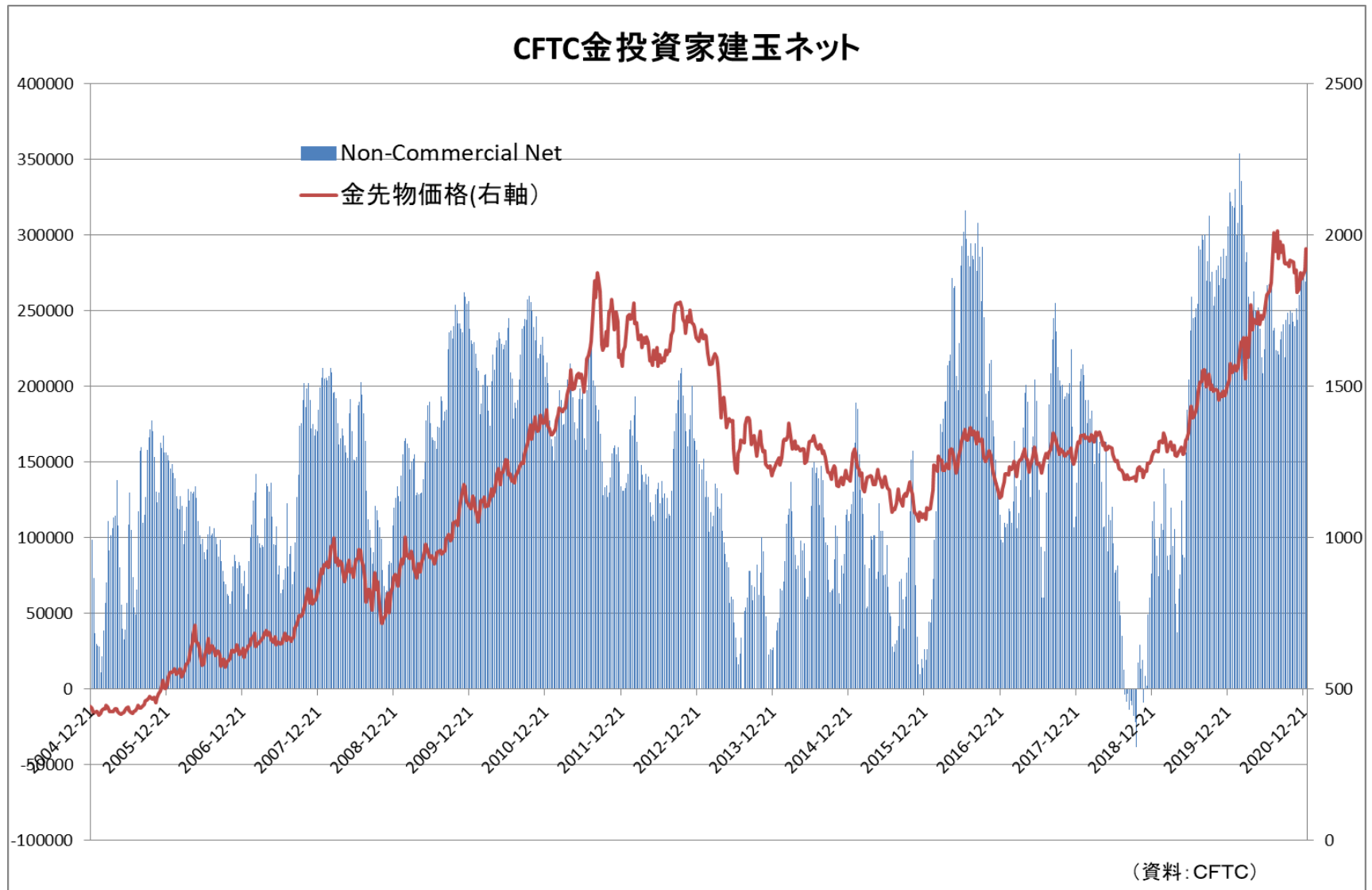
世界の投資家の原油先物ポジション

---原油需給に楽観的なポジションが継続---



世界の投資家の金先物ポジション

---投資家ポジションは小幅減少も高水準維持---



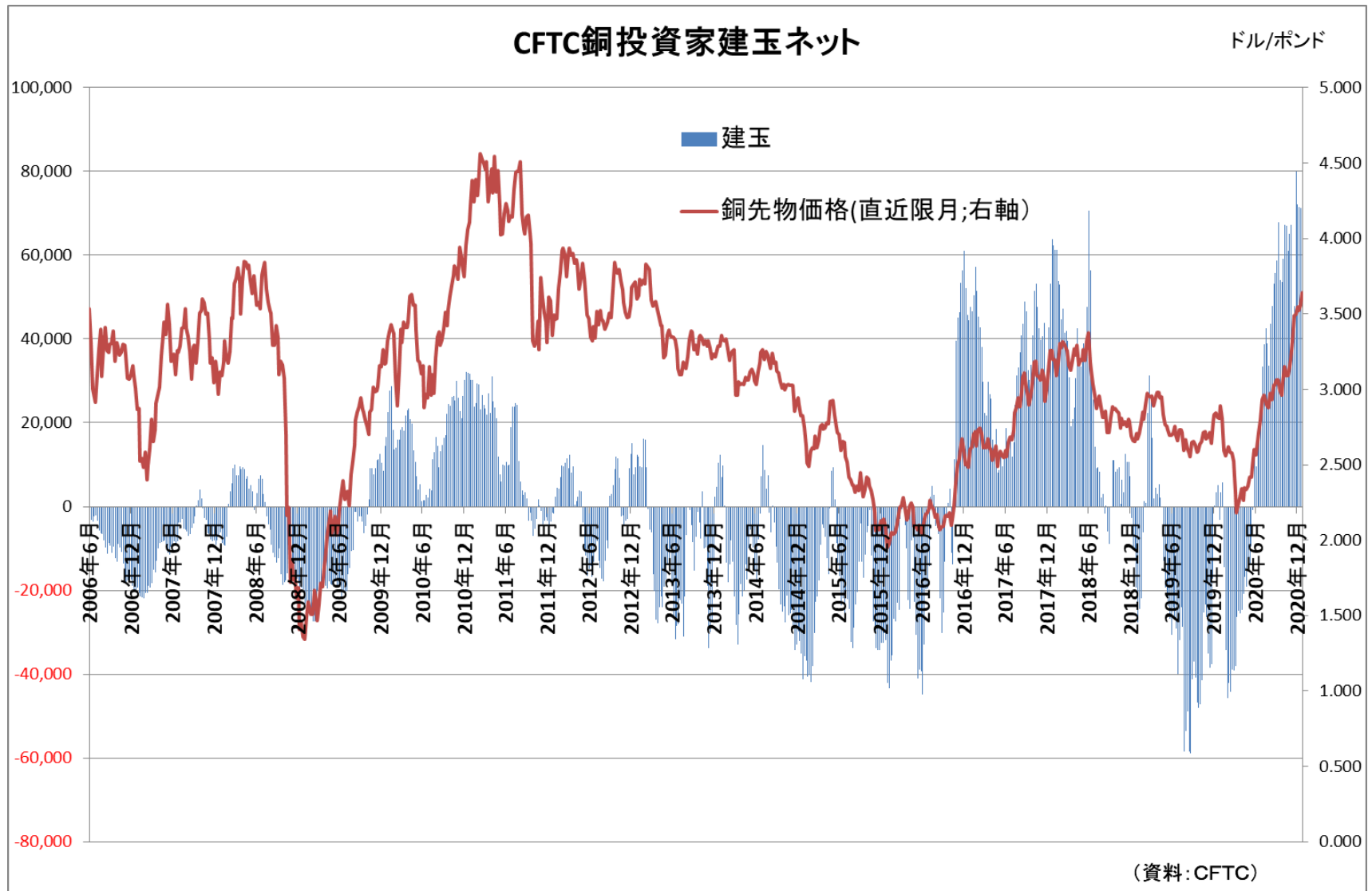
新型ウィルスで価格下落後、現状大幅に上昇

---中国経済の好調な状況を織り込みもオーバーシュート域---



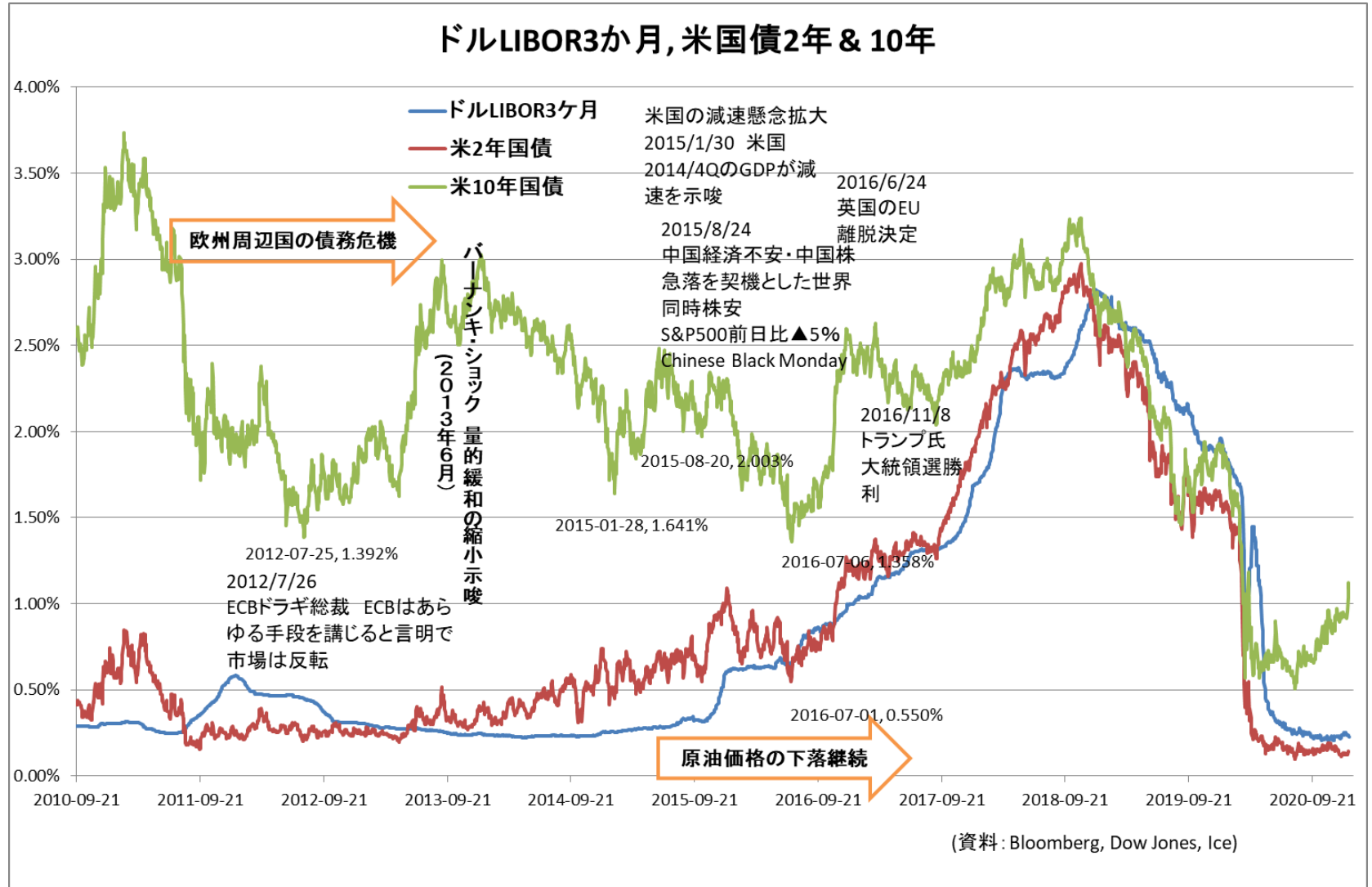
世界経済鈍化懸念で価格下落後価格回復

---中国の経済動向に楽観的な見方から買建急増もオーバーシュート域---



金利動向

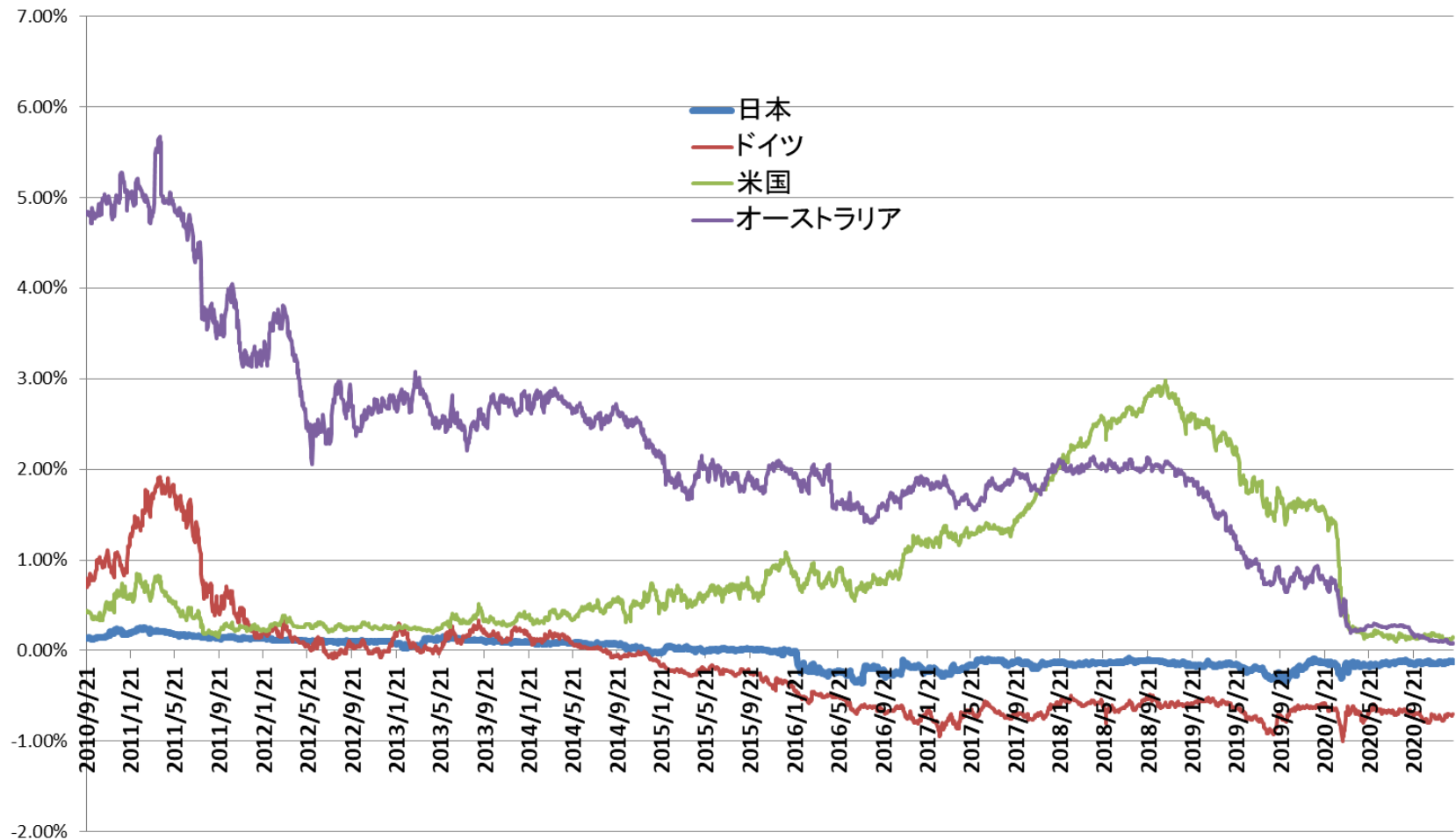
---ドル金利の急低下も一段落、10年国債利回りは上昇---



金利動向

---ウィルス要因で金利急低下後、横ばい---

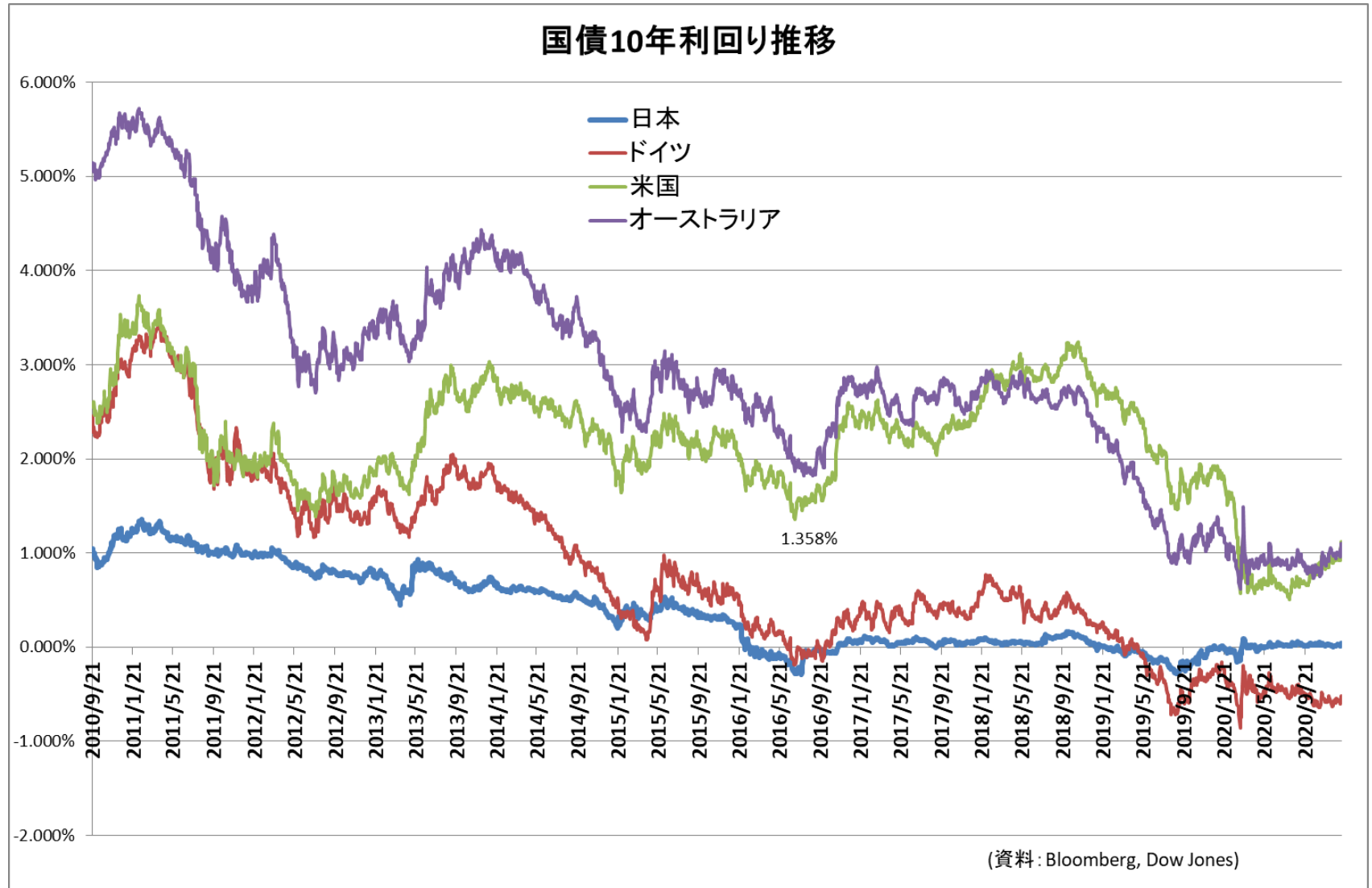
国債2年利回り推移



(資料: Bloomberg, Dow Jones)

金利動向

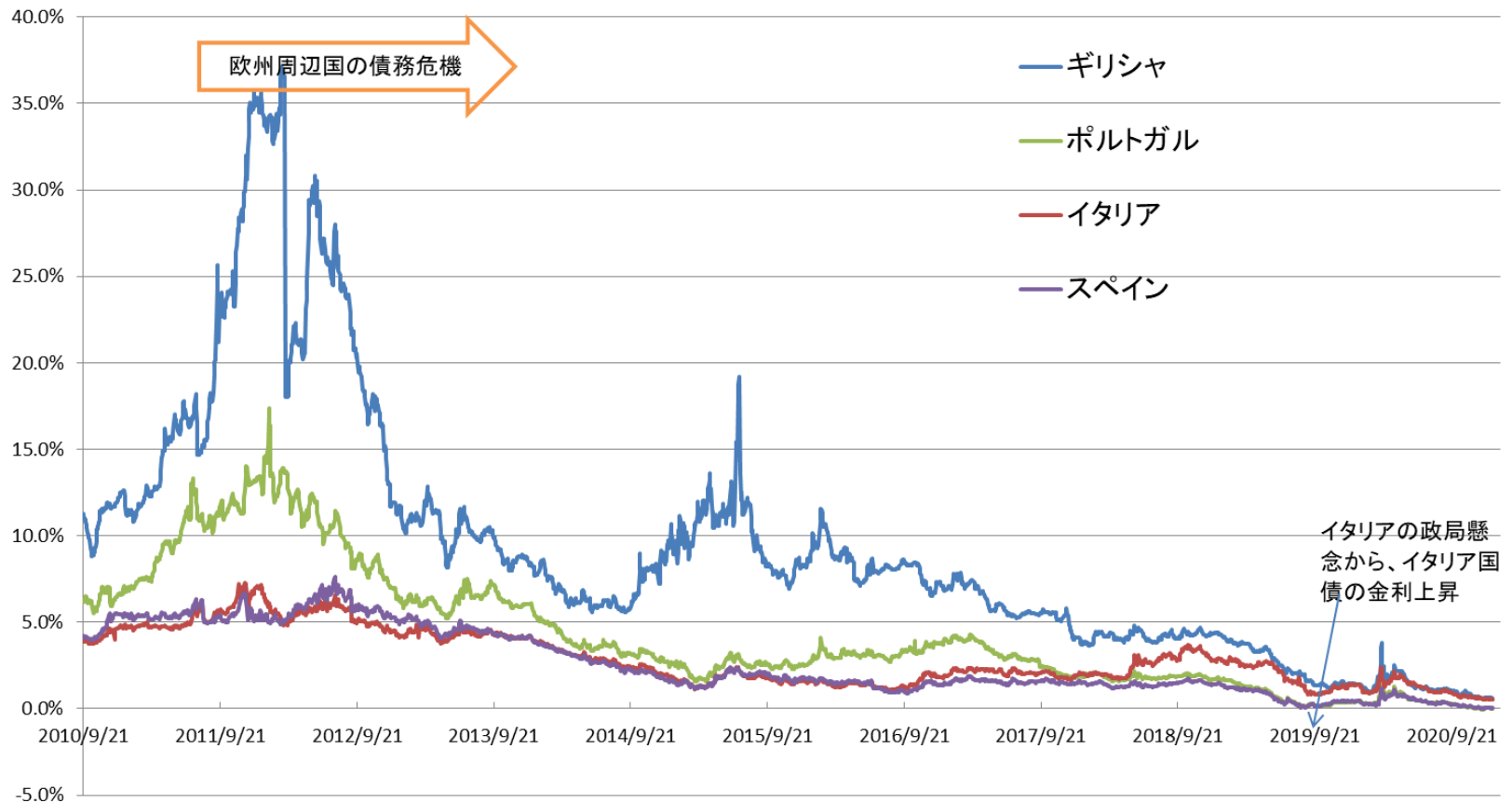
---ウィルス要因で金利急低下もボトム圏で横ばい---



金利動向

---欧州周辺国金利も底這い圏に---

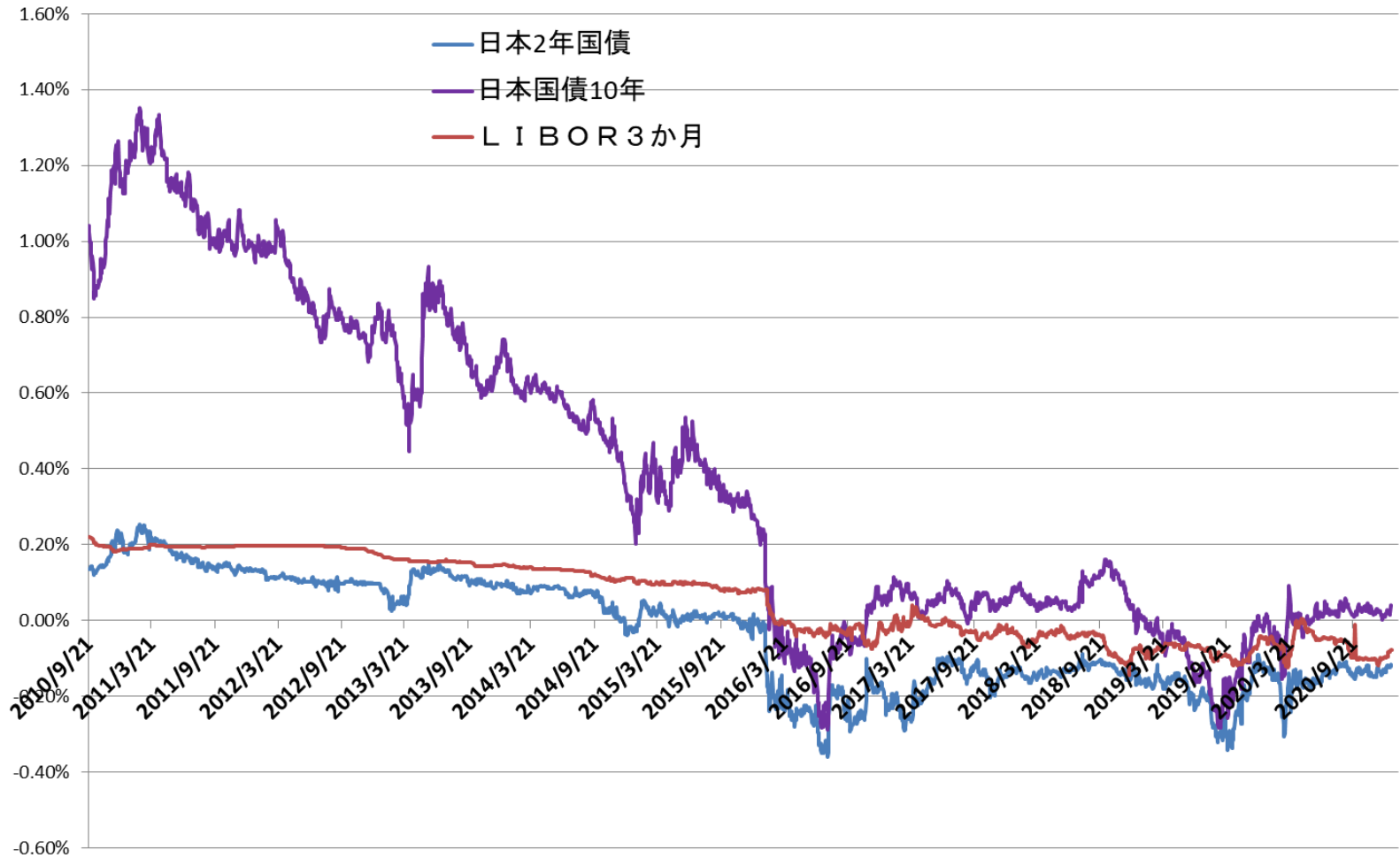
ユーロ圏周辺国10年国債利回り推移



(資料: Bloomberg, Dow Jones)

金利動向

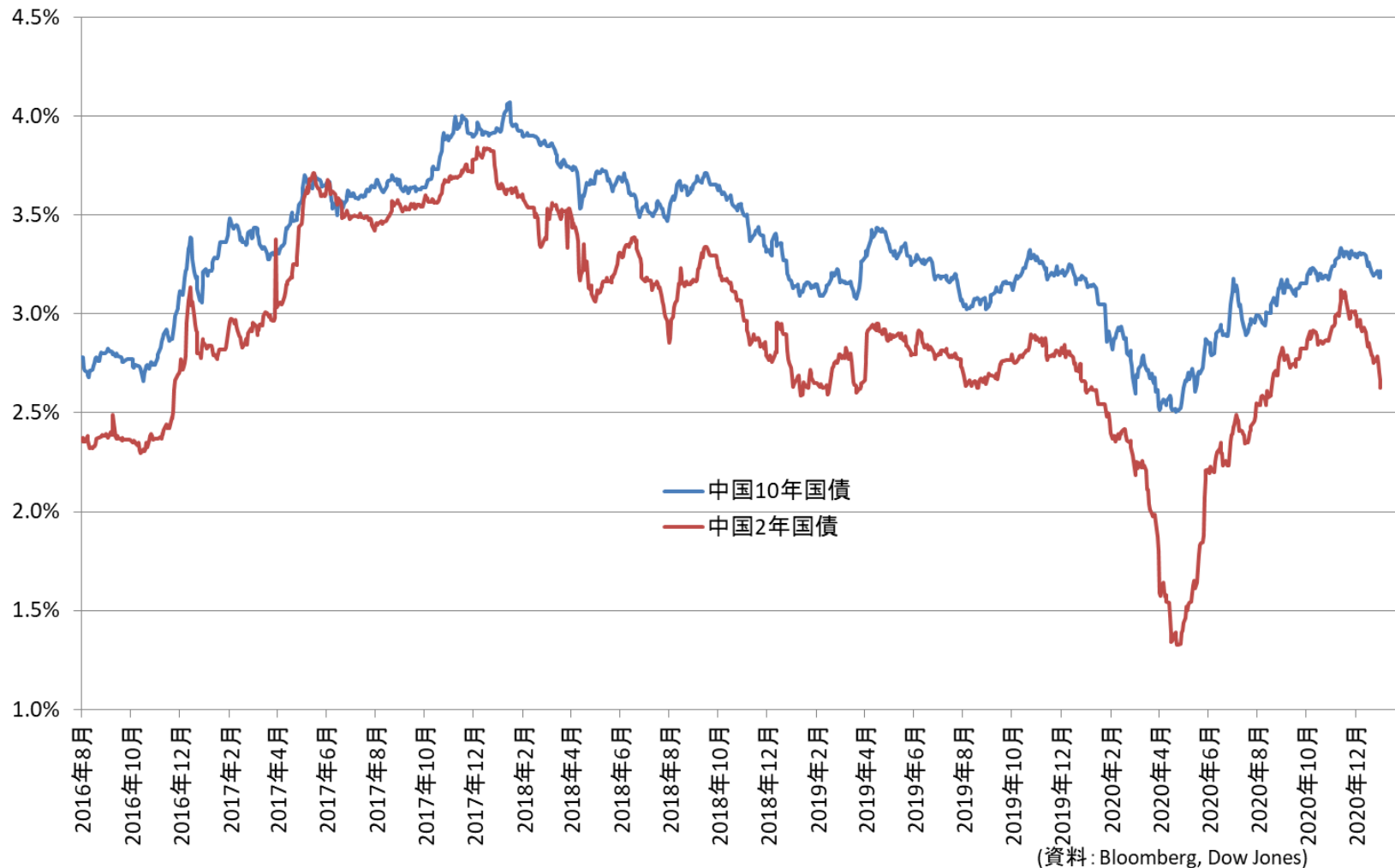
日本国債利回り



(資料: Bloomberg, Dow Jones)

金利動向

中国国債利回り最近の推移



DISCLAIMER

本レポートに含まれる情報は、予測に関するものを含め、本レポートの発行時点で、信頼に足ると考えられる資料及び情報源から取得したものです。当社は、それらの情報の正確性について疑うべき事由を認識してはおりませんが、それらの情報に関する検証を行ってはおらず、また、それらの情報について表明、保証等を行うものではありません。

本レポートの読者は、本レポートに含まれる情報の関連性、正確性及び完全性並びにそれらの情報が最新のものであるか否かについて、独自に評価する責任があります。

本レポートは、純粋な情報提供の目的でご提供するものであり、従って、有価証券若しくはその他の金融商品の売買若しくは取得の申し込み又はその誘因を目的とするものではありません。

当社は、何人に対しても、本レポートに含まれる情報を使用し、またはそれらの情報に依拠したことにより生じた損失、損害、費用及び経費について、一切責任を負いません。